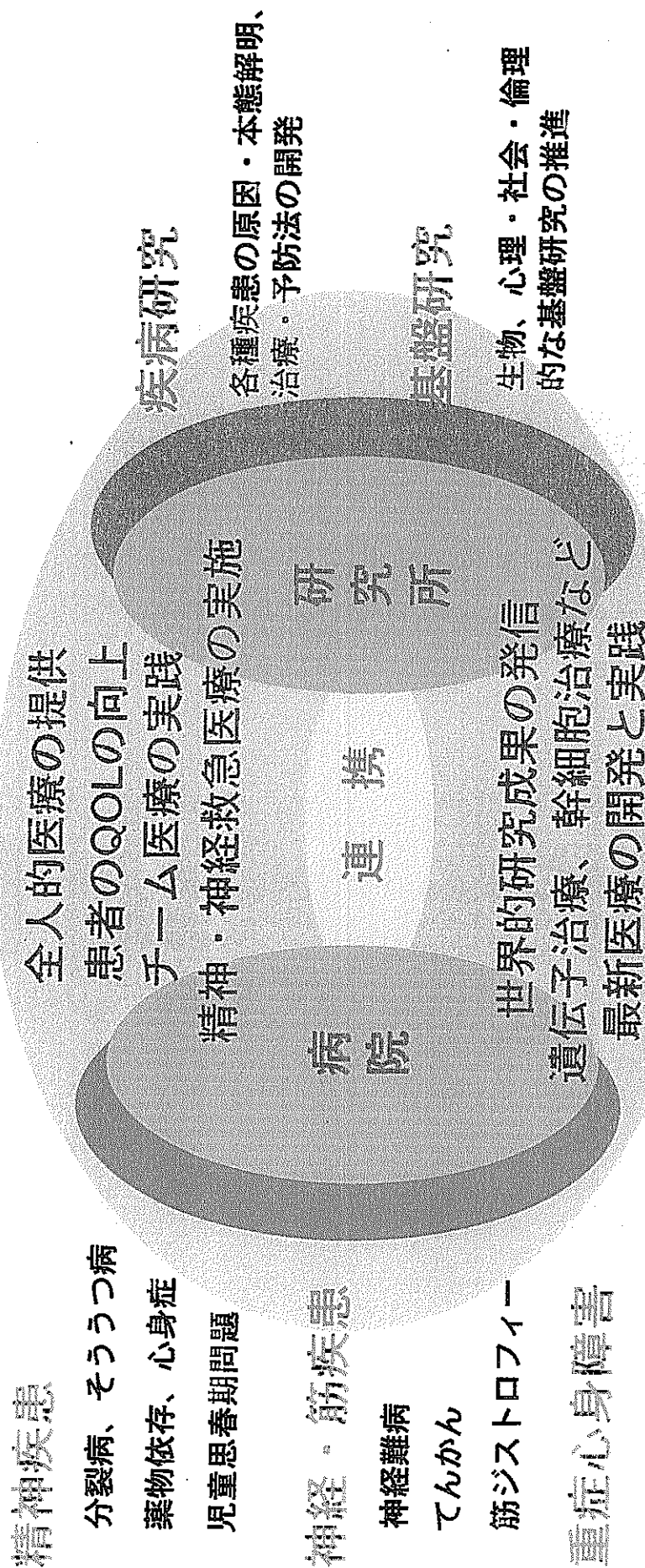


病院と研究所が連携した 政策医療の推進



国民の脳とこころの健康を増進
世界の模範となる21世紀型医療の実施

(参考)

国立精神・神経センター神経研究所 概 要

平成16年6月

1. 概 要

1. はじめに

国立精神・神経センター神経研究所は、昭和 53 年 4 月国立武蔵療養所神経センターとして精神・神経・筋・発達障害の病因、病態の研究、およびその治療法の開発を目ざして 8 部 16 室の構成で開所された。昭和 61 年 10 月 1 日、国立武蔵療養所は千葉縣市川市にある国立精神衛生研究所と合併、国立がんセンターと国立循環器センターに続く第 3 の国立高度専門医療センターとして国立精神・神経センター(National Center of Neurology and Psychiatry: NCNP)に昇格した。その際国立武蔵療養所神経センターは、現在の神経研究所(National Institute of Neuroscience, NIN)と改名した。爾来 16 年半、神経研究所は研究所員のたゆまぬ努力によって着実に発展し、世界中にその名が知られるに至り、国内で最も活性のある研究所の一つと評価されている。平成 7 年より中核的研究拠点(Center of excellence, COE)に指定され、遺伝性変性疾患や外因性疾患の精神・神経難病の病因・病態・治療法の研究が重点的に研究されている。これは遺伝子科学の普及とその脳疾病研究への応用という 20 世紀最後におしよせた世界的な研究の波に乗り、精神、神経、筋、発達障害の研究のすべて領域に渡っての先端化のために努力をし、多くの成功を納めて来た賜である。さらに我々は単にこの波に対応するだけでなく、来るべき次の波を予想しそれに対する対応策を考えておかなければならない。即ち、21 世紀は脳と心の世紀と称して脳とこころの科学研究が立ち上げられている。精神とこころは脳神経の機能を反映しており、分子レベルでとらえられる日も近いであろう。本研究所でも、研究手法として分子生理学的を積極的に取り入れたり、実験動物も霊長類を用いる等、この流れにすみやかに対応している。

2. 研究所の施設

研究所の施設は約 8000 平米の本館、約 4000 平米の 2 号館、約 3000 平米の実験動物研究施設の 3 棟から成っていたが、平成 12 年度には約 1500 平米の中型実験動物研究施設が新築されるとともに、ゲノム解析センターが開設され、分子・遺伝子治療と遺伝子解析の基盤が拡大した。しかし、2 号館と実験動物研究棟は築後二十数年となり、配管などの老朽化による故障が多い。また、実験動物研究施設では遺伝子改変モデル動物が年々多くなり、スペースの不足と清浄度の異なる動物棟が必要となっている。これを受け、平成 15 年度末からは第 2 動物棟および霊長類飼育研究施設の建築が開始された。さらに、平成 16 年度には精神保健研究所の移転をひかえており、そのために新しい第 3 号館が建設された。組織的にも統合された暁には、世界に類をみないスケールの大きい斬新な研究所への発展が期待される。

3. 研究所の組織

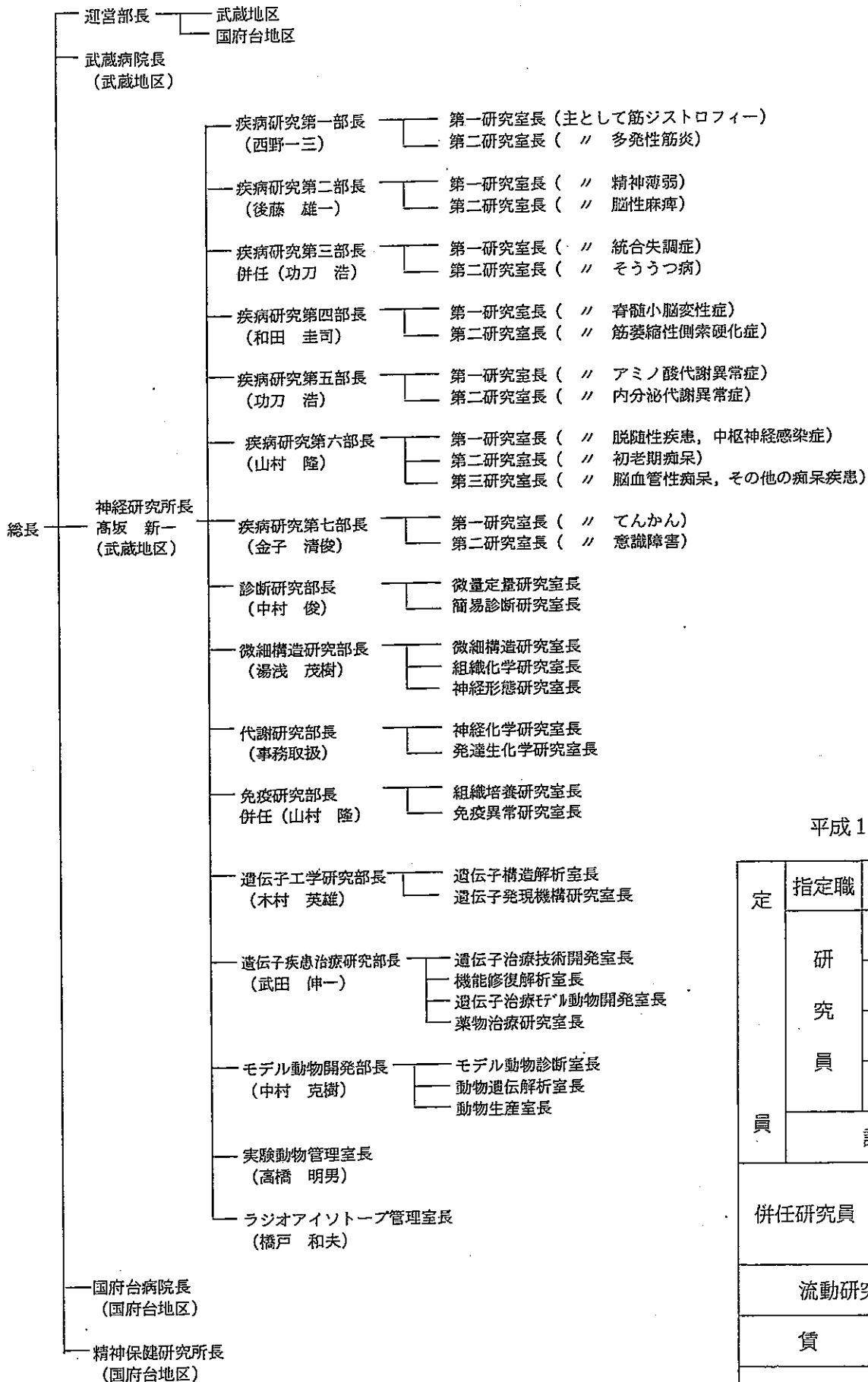
神経研究所は指定職 1 名、研究職 46 名から成り、14 部 35 室及び実験動物管理室とラジオアイソトープ管理室から構成されている。従って 1 部当りの研究職の定員は平均約 3 名である。この 2-3 年の間に優秀な部長と室長が多数着任し、研究指導者も若返り、更に大きな発展が期待される。平成 15 年度には、モデル動物開発部長として京大霊長研から中村克樹氏を迎えた。本研究所にはなかったヒトを含めた霊長類の高次脳機能研究分野が加わり、更に幅広い研究が推進できるものと期待されている。

また、一方、神経研究所は非常に開放的であり、外部から多くの研究者を集めている。その主なものとして流動研究員制度があり、定員 45 名に及ぶ若手研究員が活躍している。その他に、科学技術特別研究、さきがけ研究員、中核的研究拠点 (COE) 研究員、ミレニアムプロジェクト研究員、脳科学研究リサーチレジデントなど、外国の postdoctoral fellow に相当する研究者が合計 49 名、その他、研究生、併任研究員、客員研究員など 146 名に達しており、これらの研究者の貢献も非常に大きい。さらに、委託大学院学生の数の多さである。最も多数なのは東京の大学であるが、北海道大学から、鹿児島大学に至る迄、全国から集まっている。単に神経研究所が外に対して開放的であるということだけではなく、各大学から非常に高い評価を受け、実質的に大学院大学としても作動しており、平成 16 年度からは早稲田大学理工学部との連携大学院が開始された。

この様な研究者達は非常に流動的であり、postdoctoral fellow の多くは 3 年前後あるいは数年の後には、大学の助手、講師、助教授などに就職するもの、又は各種企業の研究所等に於いて活躍するものが殆どである。大学院学生は神経研究所において論文を完成して、もとの大学で学位を授与されることが殆どであるが、その中には大学院を卒業後も postdoctoral fellow として神経研究所に残り、更に研究を続けるものもある。このように、本研究所は若手研究員の教育の場ともなっている。

神経研究所には、外国からの留学生 (研究員) も多く、中国、韓国、ドイツ、インド、チュニジア、インドネシア、ガーナなど 16 名に及ぶ。またハーバード大学など世界の一流の研究機関との共同研究も盛んである。

国立精神・神経センター神経研究所組織



平成15年度の計

定員	指定職	所 長	1
	研究員	部 長	12
		管理室長	2
		室 長	32
		研究員	—
	計		47
併任研究員		部 長	2
		研究員	30
流動研究員			45
賃 金			10
合 計			134

平成 15 年度の研究活動状況と論文発表業績

研究活動状況

(疾病研究第一部)

- ・独自のヒト骨格筋用マイクロアレイの開発を行なった。
- ・縁取り空胞を伴う遠位型ミオパチー (DMRV) の病態の解明を行なった。

(疾病研究第二部)

- ・精神遅滞をきたす疾患の病因・病態と治療法の解明のために、研究リソースと情報を当センターに集積・運用するシステムの構築を開始した。ミトコンドリア病の網羅的な遺伝子解析手段を開発し、新たな病因的変異を複数発見した。

(疾病研究第三部)

- ・Dysbindin、chimerin 2、p75 などの遺伝子変異が精神疾患（前者は統合失調症、後者はうつ病）の発病脆弱性と関連する可能性を見出した。
- ・グルココルチコイドが脳由来神経栄養因子 (BDNF) の機能を傷害することを培養神経細胞で明らかにした。
- ・ゲノムのメチレーションの簡易定量法を開発した。

(疾病研究第四部)

- ・新規のパーキンソン病モデルマウスを開発し、特許出願を行なった。
- ・神経幹細胞に発現する G 蛋白質共役型受容体を網羅的に同定し、神経管細胞機能を制御する薬剤の新規開発系を構築した。

(疾病研究第五部)

- ・パーキンソン病などの原因である小胞体ストレス細胞死の分子機構として、複数の細胞死経路（カスパーゼ 1/2 とカスパーゼ 8/9）の関与が明らかになった。また、シナプス形成に関与する RA175/TSLC1/SynCAM 蛋白の細胞接着性能を明らかにした。

(疾病研究第六部)

- ・アルツハイマー病の β アミロイド蓄積機序解明を目的とし、プレセニリン 1 (PS1) 関連新規タンパク Adoplin の機能解析、PS1 複合体因子 APH-1 の発現解析などを行い、新知見を得た。細胞内 β アミロイドを定量し、その局在を明らかにした。
- ・タウ遺伝子の多型の一つと男性の早発性アルツハイマー病との関連を明らかにした。

(疾病研究第七部)

- ・正常な folding を受けた分子の解きほぐしを行う新規シャペロン分子を同定し、in vitro における機能を検討した。
- ・プリオンによる神経細胞死に関与する新規分子を複数同定し、その機構を部分的に解明した。

(診断研究部)

- ・発達期の中枢性興奮性シナプスに存在するサイレントシナプスの活性化に神経活動と脳由来神経栄養因子が必須であることを明らかにした。

(微細構造研究部)

- ・扁桃体単一神経細胞のレーザーマイクロディセクションによる網羅的遺伝子発現解析法を開発し、情動障害を示すモデルマウスを用いて情動発現異常と関連した遺伝子を見出した。

(代謝研究部)

- ・末梢神経切断後におこる神経性疼痛にミクログリアが関与していることを明らかにした。
- ・神経幹細胞の分裂増殖および分化に NMDA 受容体が重要な役割を担っていることを明らかにした。

(免疫研究部)

- ・多発性硬化症の新しい治療薬 OCH を開発しネーチャー誌に報告したが、その作用メカニズムを解明することに成功した。
- ・DNA マイクロアレイによって多発性硬化症の血液診断が可能なことを明らかにした。

(遺伝子工学研究部)

- ・ガス性神経伝達修飾物質としての硫化水素が、グリア細胞に直接働き、カルシウムウェーブを誘起することによって、シナプス伝達調節をしていることを見い出した。
- ・中枢神経系特異的タンパク、プレセニリン結合タンパク (PBP、あるいは MOCA) が Rac1 を活性化して神経突起の成長を促していることを見い出した。

(遺伝子疾患治療研究部)

- ・ストロフィン欠損マウスにおける AAV ベクターを用いた遺伝子治療法を確立した。
- ・ジストロフィン欠損イヌにおける Purkinje 線維の最早期障害を発見した。

(モデル動物開発部)

- ・高次脳機能障害を示す患者の方の認知機能を神経心理学的・脳機能画像学的に検討を始めた。
- ・研究人員の獲得や研究環境整備、特に霊長類を用いた研究に向けての環境整備を行った。

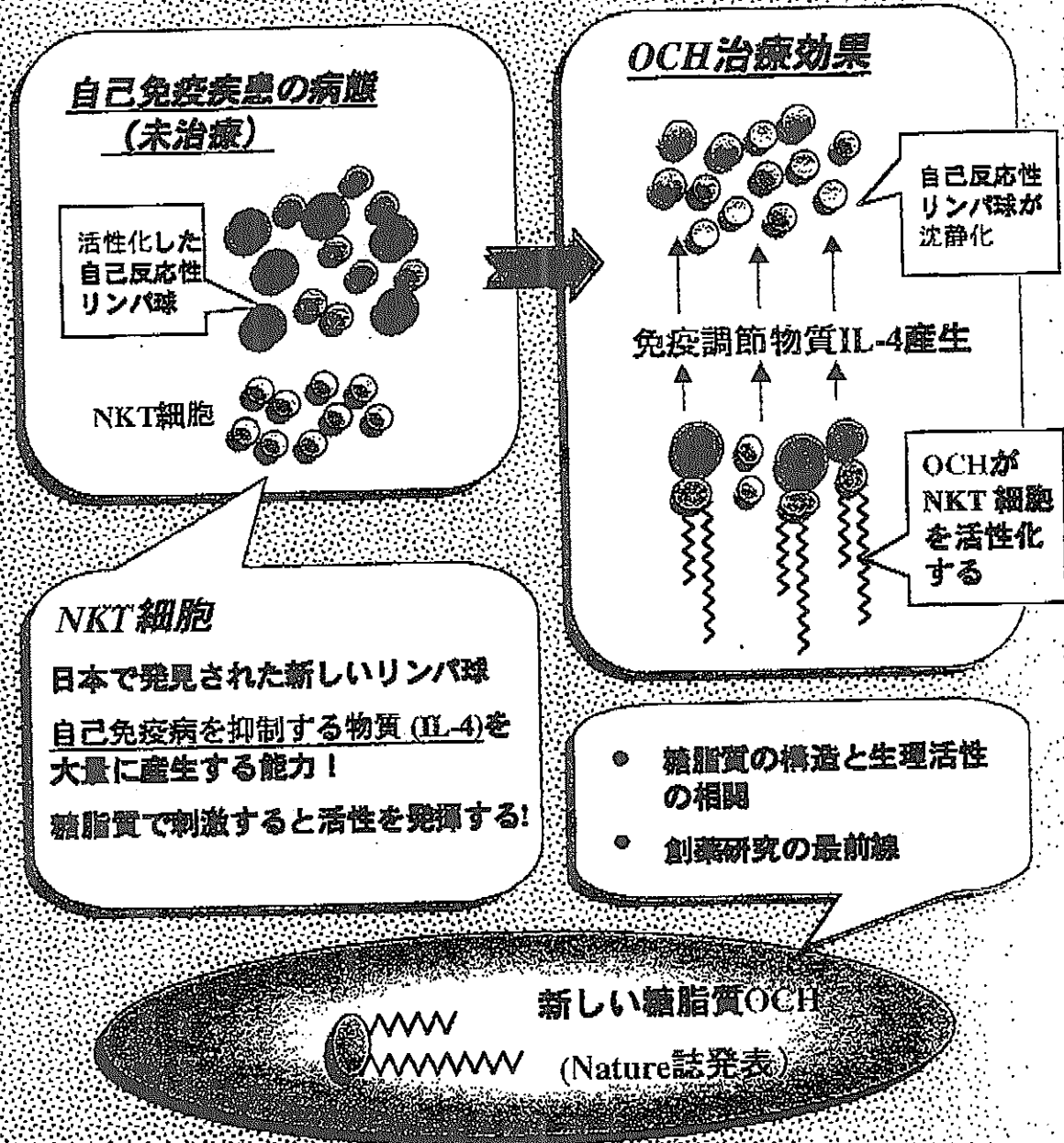
(動物実験管理室)

- ・マウス胚凍結保存による遺伝子資源保管を継続実施した。
- ・筋ジストロフィーモデル犬の循環器障害の原因について、分子生物学的手法により多くの知見を得た。

(RI 管理室)

- ・より効率的な R I の管理方法を検討し、改善を図った。定期検査に備えて施設の補修を行い、検査に合格した。
- ・2号館 R I 施設の廃止を決定した。
- ・研究室の基盤造りを目指し、設備・機器の導入を行った。

自己免疫疾患に対するNKT細胞 糖脂質リガンド療法の開発と実用化



多発性硬化症、関節リウマチなど、自己免疫病の新規治療法確立。革新的な免疫調節療法。

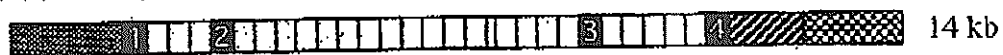
マイクロ・ジストロフィン遺伝子

概要：

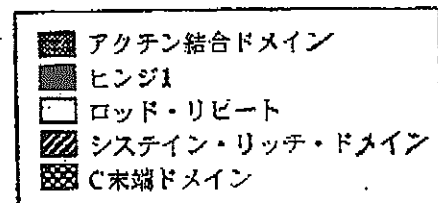
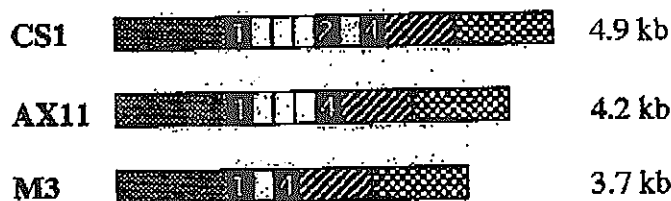
アデノ随伴ウイルス (AAV)ベクターを用いたデュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する遺伝子治療法の確立を目的とした。AAVベクターへの遺伝子挿入サイズは4.9 kb以下の制限があることから、治療用遺伝子としてロッド・ドメインを短縮した小型のマイクロ・ジストロフィン遺伝子の開発し、特許申請を行った。

構造：

全長型ジストロフィン



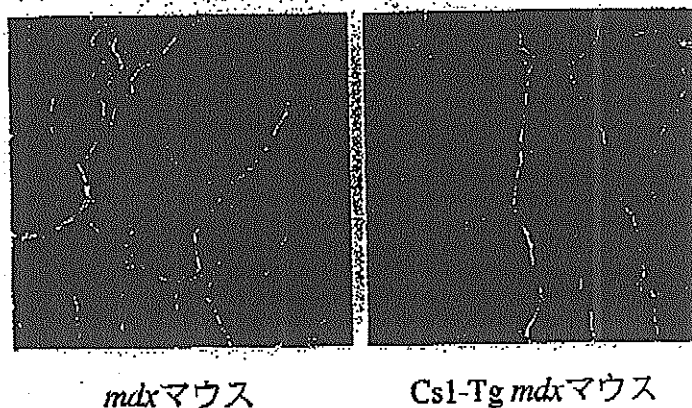
マイクロ・ジストロフィン



治療効果：

マイクロ・ジストロフィンの機能を検定するために、トランスジェニック (Tg) *mdx*マウスを作製した。血清CK値と骨格筋病理像、電気生理学的な張力発生を解析した結果、ロッド・リピート 4個とヒンジ 3個を持つマイクロ・ジストロフィン CS1が最も効果的に筋ジストロフィーの表現型を改善させることが明らかになった。現在、臨床応用を目標とし、筋ジストロフィー犬への遺伝子導入を試みている。

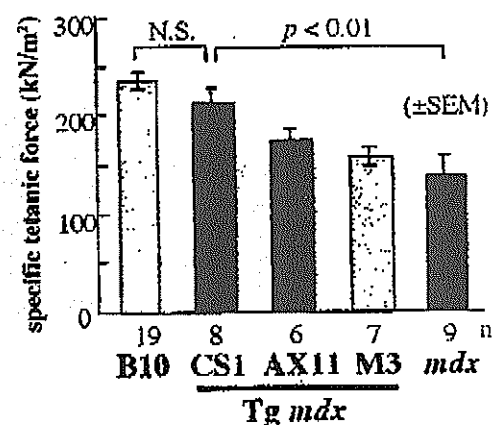
(1) 骨格筋病理像（前脛骨筋）



*mdx*マウス

Csl-Tg *mdx*マウス

(2) 筋張力発生（横隔膜）



出版英文論文 (平成12～14年度)

平成12年度 159 編

インパクトファクター5以上の雑誌 (34編)

Nature	1	Hum Mol. Genet1..	6
Nature Genet.....	1	J. Biol Chem.	5
Nature Med	1	J. Neurosci.	4
Neuron	2	Development.....	2
PNAS	2		

平成13年度 166 編

インパクトファクター5以上の雑誌 (29編)

Nature	2	Hum Mol. Genet1..	3
Science	1	J. Biol Chem.	4
Nature Med	1	J. Neurosci.	1
PNAS	3	J. Exp. Med	2
FASEB J	1		

平成14年度 145 編

インパクトファクター5以上の雑誌 (31編)

Nature	1	J Exp Med	1
Neuron	2	J Biol Chem	5
Am J Hum Genet ..	1	PNAS	2
Ann Neurol	4	Hum Gene Therapy ·	2
Hum Mol Genet ...	6	J Cell Biol	2
J Neurosci	4	Dev Biology	1

研究費内訳

競争的原理に基づく研究費調達状況 (神経研究所)

(単位:千円)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
1 科学技術振興調整費				
(1) 中核的研究拠点(COE)育成(神経研究所)	39,689	41,451	39,623	40,112
(2) 目標達成型脳科学研究推進制度	211,331	35,209	39,683	16,639
(3) 国際共同研究総合推進制度	0	0	0	0
2 科学技術振興事業団				
(1) 戦略的基礎研究	147,000	183,000	156,000	199,600
(2) さきがけ研究21	10,000	10,000	0	0
3 文部省科学研究費補助金				
(1) 特定領域研究(A)	13,800	3,000	15,000	35,700
(2) 特定領域研究(B)	14,400	14,400	-	-
(3) 特定領域研究(C)	60,790	47,700	-	-
(4) 基盤研究(A)	0	0	0	0
(5) 基盤研究(B)	37,800	45,300	31,800	47,373
(6) 基盤研究(C)	23,100	28,500	12,000	16,800
(7) 萌芽的研究	0	1,900	2,300	6,800
(8) 奨励研究(A)	4,300	1,900	2,200	7,700
4 医薬品機構基礎研究推進事業 (メディカル・フロンティア) (保健医療分野における基礎研究事業)	0 -	47,000 -	50,499 81,000	42,000 81,000
5 ミレニアム・プロジェクト				
(1) ミレニアム	650,000	550,000	483,494	394,265
(2) ヒトゲノム・再生医療	105,000	90,000	83,000	70,060
6 厚生科学研究費補助金				
(1) 脳科学研究事業	348,000	314,500	298,215	258,337
(2) その他	-	-	258,275	358,402
7 精神・神経疾患研究委託費	46,680	49,450	44,307	57,950
8 受託研究費	40,650	25,170	21,902	17,475
9 その他				
民間等からの研究助成金・共同研究費等	-	-	-	39,100
合 計	1,752,540	1,488,480	1,619,298	1,689,313

平成12年度 1件

○特許出願番号	2000-358539
特許の名称	高効率抗体スクリーニング法
特許出願人	国立精神・神経センター総長、科学技術振興事業団

平成13年度 6件

○特許出願番号	2001-247055
特許の名称	新規な糖脂質及びこれを有効成分とする自己免疫疾患治療薬
特許出願人	JST((株)ジェノックス創薬研究所に移譲)

○特許出願番号	
特許の名称	脳ファントムを用いたSPECT画像間差補正法
特許出願人	国立製版・線形センター総長、(株)第一ラジオアイソトープ研究所

○特許出願番号	2001 288854
特許の名称	ホモシステイン血症治療剤
特許出願人	国立精神・神経センター総長、医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構、(株)ジェノックス創薬研究所

○特許出願番号	
特許の名称	多発性硬化症など臓器特異的自己免疫疾患治療薬としての新規糖質リガンドの開発
特許出願人	国立精神・神経センター総長

○特許出願番号	
特許の名称	マイクロアレイ作成支援データベースの作成方法
特許出願人	国立精神・神経センター総長、(株)インフォコムヒューマンライフソリューション本部

○特許出願番号	
特許の名称	Scan-Sampling Synchronization法を用いた脳波と機能MRIの同時連続測定法
特許出願人	国立精神・神経センター総長、(株)フィジオテック

平成14年度 7件

○特許出願番号	2002-123176
特許の名称	遺伝子データベース作成方法、遺伝子データベース作成装置、 遺伝子データベース作成プログラム、および遺伝子データベース 作成プログラムを記録したコンピュータ読みとり可能な記録媒体
特許出願人	国立精神・神経センター総長、科学技術振興事業団

○特許出願番号	2002-181728
特許の名称	アルツハイマー病の遺伝子診断およびこれに用いるための各核酸分子
特許出願人	国立精神・神経センター総長、医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構、(株)ジェノックス創薬研究所

○特許出願番号	2002-188932
特許の名称	多発性硬化症に対するインターフェロン・ベータ薬物治療の有効性予測方法
特許出願人	国立精神・神経センター総長、(株)日立製作所

○特許出願番号	PCT/JP02/08280
特許の名称	新規な糖脂質及びこれを有効成分とする自己免疫疾患治療薬
特許出願人	国立精神・神経センター総長、(株)ジェノックス創薬研究所

○特許出願番号	
特許の名称	新規な糖脂質誘導体及びそれらの合成中間体の製造法並びにその合成中間体
特許出願人	国立精神・神経センター総長、第一サントリーファーマ(株)

○特許出願番号	
特許の名称	新規な糖脂質誘導体並びにそれらを含む医薬
特許出願人	国立精神・神経センター総長、第一サントリーファーマ(株)

○特許出願番号	
特許の名称	ユビキチンC末端水解酵素発現マウス
特許出願人	国立精神・神経センター総長、ジェノックス創薬研究所

平成15年度8件

○特許出願番号	
特許の名称	マクロファージ系細胞の活性化抑制物質のスクリーニング方法
特許出願人	国立精神・神経センター総長

○特許出願番号	
特許の名称	Reelin、DRD2遺伝子プロモーター領域内のメチル化感受性制限酵素BssH部位におけるDNAメチル化状態を量的に検出する方法
特許出願人	国立精神・神経センター総長

○特許出願番号	
特許の名称	プリオン遺伝子発現を抑制するSmall interfering RNA (siRNA) 二量体とそのプリオン遺伝子ターゲット配列そしてそれらを用いた効果的なプリオン遺伝子ノックダウン法
特許出願人	国立精神・神経センター総長

○特許出願番号	
特許の名称	A screening method of drug for tretment of neuropathic pain,
特許出願人	国立精神・神経センター総長、国立医薬品食品衛生研究所

○特許出願番号	
特許の名称	タウ遺伝子中の遺伝子多型を利用したアルツハイマー病の発症リスクの予測法およびこれに用いるための核酸分子
特許出願人	国立精神・神経センター総長、医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構

○特許出願番号	
特許の名称	RNA干渉(RNAi)誘導・活性課程におけるSmall interfeving (siRNA) 二量体のRNA-induced silencing complex (RISC) への取り込みモデルとそのモデルを基に予測されるRNAi活性を調節するsiRNAの改良
特許出願人	国立精神・神経センター総長

○特許出願番号	
特許の名称	RNA干渉(RNAi)活性を高めるSmall interfevingRNA (siRNA) 二量体の改良法
特許出願人	国立精神・神経センター総長

○特許出願番号	
特許の名称	多発性硬化症に対するインターフェロン・ベータ薬物治療の有効性予測方法
特許出願人	国立精神・神経センター総長、日立製作所

神経研究所 研究生受入状況について

過去3年間受入状況

平成12年度：118名 平成13年度：88名 平成14年度122名

研究生所属機関

大学・院

麻布大学、千葉大学、立教大学、金沢医科大学、浜松医科大学、奈良県立医科大学、
埼玉医科大学、姫路工業大学、京都大学、東京大学、順天堂大学、東京医科大学、
共立薬科大学、日本大学、東京農工大学、防衛医科大学、九州大学、秋田大学、北里大学、
横浜市立大学、東邦大学、東京理科大学、東京医科歯科大学、日本女子大学、
東京薬科大学

病院・研究施設

精神保健研究所、東京大学病院、北里大学東病院、日本赤十字社和歌山医療センター、
日本赤十字社東京都支部大森赤十字病院、国立療養所中部病院長寿医療センター、
国立国際医療センター研究所、岡崎国立共同研究機構生理学研究所、昭和大学藤が丘病院、
東京都神経科学総合研究所、総合病院国保旭中央病院、(財)化学及び血清療法研究所、
都立神経病院、富山化学工業(株)総合研究所、真秀塾、科学技術振興事業団、武蔵病院、
東京女子医大病院、吉岡リハビリテーションクリニック、国立感染症研究所、麻布大学附
属病院生物科学総合研究所、三菱ウェルファーマ(株)、コージンバイオ(株)、日野家田化学(株)、
(株)ホズミ北川動物病院、東京医科大学病院、獨協医科大学越谷病院、東大和療育センター、
日本水産株式会社中央研究所、東京小児療育病院、理化学研究所、東京都済生会向島病院、
心身障害児総合医療療育センター、(財)天理よろづ相談病院、慶應義塾大学病院、
積愛会横浜舞岡病院、つくば双愛病院、都立神経病院、都立大塚病院、飯森クリニック、
東京医科大学霞ヶ浦病院、日産厚生会玉川病院、公立昭和病院、

専門学校

東京医薬専門学校

他研究教育施設での研究教育活動（神経研究所）

他研究教育施設での研究教育活動(神経研究所)

1. 高坂 新一 慶應義塾大学医学部 客員教授
2. 高坂 新一 東京薬科大学生命科学部 客員教授
3. 高坂 新一 東邦大学医学部 客員教授
4. 高坂 新一 名古屋市立大学大学院医学研究科分子神経生物学分野 非常勤講師
5. 西野 一三 京都大学大学院医学研究科細胞工学・再生生物学分野 非常勤講師
6. 後藤 雄一 北海道大学医学部小児科学分野 非常勤講師
7. 後藤 雄一 山梨大学医学部保健学分野 非常勤講師
8. 後藤 雄一 東京医科歯科大学医学部発達分子学分野 非常勤講師
9. 和田 圭司 九州大学薬学部機能形態学分野 非常勤講師
10. 山村 隆 京都大学医学部神経内科学分野 非常勤講師
11. 金子 清俊 東京医科歯科大学神経内科学分野 非常勤講師
12. 武田 伸一 東北大学医学部内科学分野 非常勤講師
13. 武田 伸一 東邦大学医学部 非常勤講師
14. 中村 俊 東京農工大学工学部脳神経工学分野 非常勤講師
15. 中村 克樹 京都大学霊長類研究所高次脳機能学分野 非常勤講師
16. 中村 克樹 日本福祉大学情報社会科学部 非常勤講師
17. 佐藤 準一 東京医科歯科大学神経内科学分野 非常勤講師
18. 桃井 隆 秋田大学医学部解剖学持論分野 非常勤講師
19. 田中 寅彦 立教大学生命倫理学分野 兼任講師
20. 田中 寅彦 慶應義塾大学医学部医化学分野 非常勤講師
21. 赤澤 智宏 順天堂大学医学部生化学分野 非常勤講師

(参考)

国立精神・神経センター精神保健研究所 概 要

平成16年6月

1 創立の趣旨

昭和27年1月、アメリカNIMHをモデルに厚生省の附属機関として設立され、精神衛生に関する諸問題について、学際的立場から精神医学、心理学、社会学、社会福祉学、保健学等の各専門家による総合的・包括的研究を行うほか、国、地方公共団体、病院等において精神衛生業務に従事する者に対して、精神衛生各般にわたる必要な知識及び技術の研修を行い、資質の向上を図ることを目的としている。

2 沿革

精神保健研究所は、昭和25年の精神衛生法制定の際、国会において設立すべき旨の附帯決議が採択され、昭和27年2月に設立された。

設立当時の組織は、総務課、心理学部、生理学形態学部、優生学部、児童精神衛生部及び社会学部の1課5部であった。その後、精神薄弱に対する対策の確立の必要性が社会的に高まったことに伴い、昭和35年10月新たに精神薄弱部が設置された。

昭和40年には、精神医療の発展に伴い、地域精神医療、社会復帰等を内容とする精神衛生法の大改正が行われ、これに伴い、社会復帰部が新設された。

また、昭和48年には、人口の高齢化に伴い、痴呆老人等いわゆる「恍惚の人」が社会問題化したのを背景に、老人精神衛生部を新設した。

昭和61年10月、国立精神衛生研究所、国立武蔵療養所及び同神経センターの3施設を発展的に改組し、国立精神・神経センターが設立された。この組織改正により、精神身体病理部と優生部を統合し精神生理部としたほか、精神保健計画部及び薬物依存研究部が新たに設けられた。

昭和62年4月からは国立国府台病院が加わり、2病院、2研究所のナショナルセンターとして名実ともに体制が整えられた。

昭和62年10月には、心身医学研究部の新設が認められ10部となった。

また、平成11年4月には、精神薄弱部が知的障害部と名称変更され、さらに、薬物依存研究部の組織改正により1室新設された。

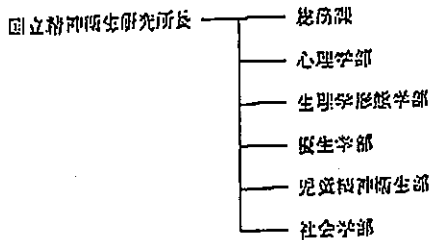
平成14年1月に創立50周年を迎え、公開市民シンポジウム等を行った。

平成15年10月には、司法精神医学研究部が新設され、3室体制で、研究員の増員も認められ、研究所の組織は、11部27室体制（精神保健研修室を含む。）となった。

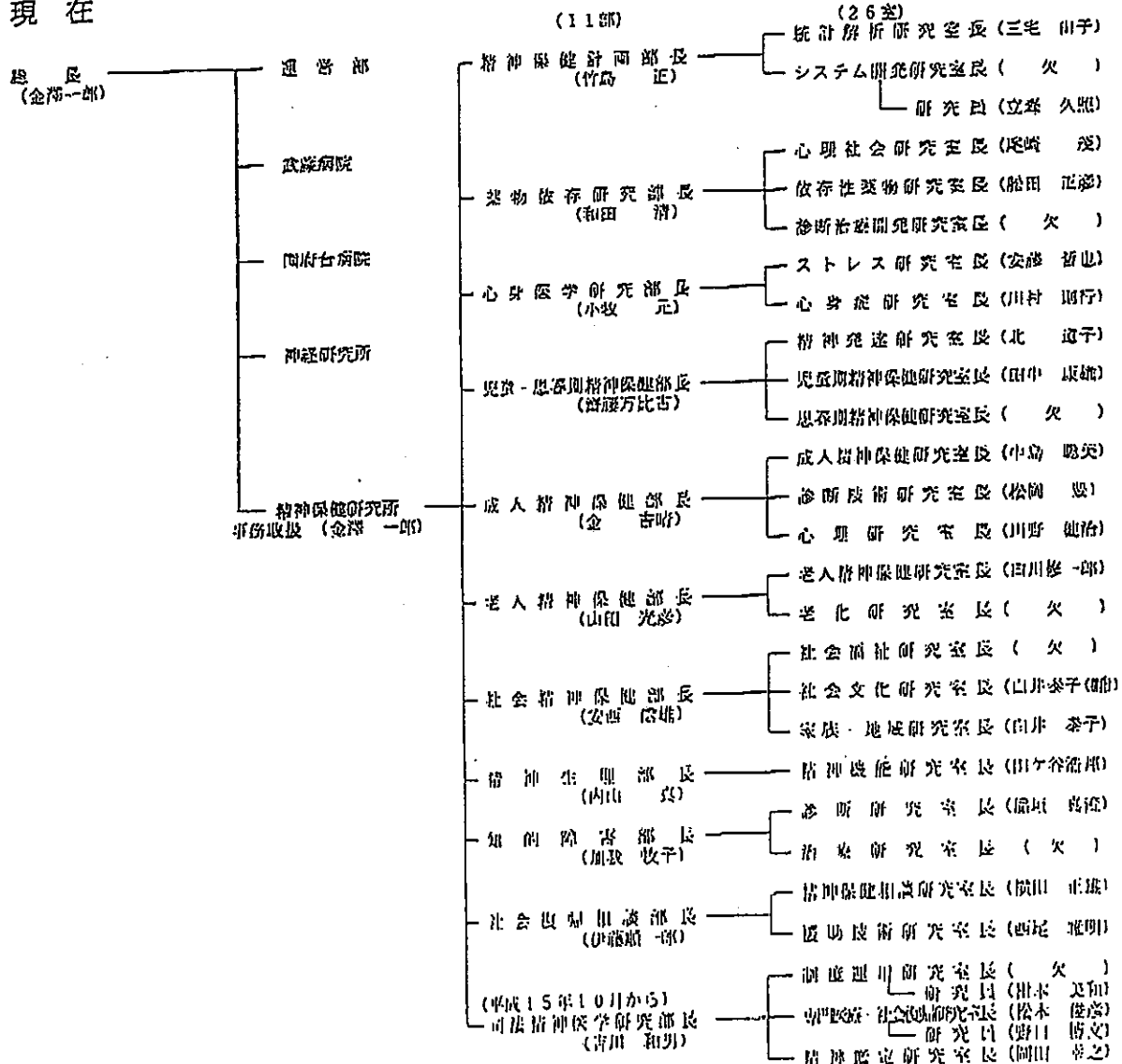
精神保健研究所の概況

(精神保健研究所 組織図)

開設当時 (昭和27年1月)



現在



精神保健研究所各研究部の取り組みと目標

研究部	所掌事務	現在の取り組み	将来の目標
精神保健計画部	精神保健に関する計画の調査及び研究を行うこと	精神病院・社会復帰施設、措置入院等の全国データをもとに、精神保健福祉の現状と施策効果のモニタリング研究を実施。その結果は政策検討の資料として活用されている。さらに、所外の複数の医療機関、研究グループと連携し、実証的臨床研究を協同で行っている。	精神保健福祉の現状と施策の全般的なモニタリングと評価を可能にするデータベースの構築に取り組み、政策研究の拠点となる。また精神医療における治療やリハビリテーションに関する科学的知見を充実させるための方法論的研究を進め、根拠に基づいた精神科医療施策等の推進に寄与する。さらに、インターネットを用いて現場の意見を集約し生かすためのシステム構築を目指す。
薬物依存研究部	薬物依存及び向精神薬の薬効の調査及び研究を行うこと	①薬物乱用実態把握のため、全国住民調査、全国中学生調査、全国精神病院調査、HIV感染定点調査を継続的に実施している。②薬物依存症重症度評価尺度の開発に取り組んだ。③トルエン及びメタノンフェタミンの精神依存起メカニズム解明研究を継続的に行っている。④MDMA及び脱法ドラッグの依存性及び毒性に関する研究を開始した。	①に関しては、薬物乱用・依存状況把握のための総合的システム構築を目的とし、②に関しては、標準化を目指す。③については、責任遺伝子の同定を目指し、治療法の開発に結びつける。④今後新たな登場してくる脱法ドラッグについての依存性、毒性研究を続ける。
心身医学研究部	主として心身症に関し、精神衛生学的、心理学的及び社会学的調査及び研究を行うこと（他部の所掌の属することを除く）	ストレス疾患としての心身症の発症メカニズムの解明、診断基準の作成と効果的な治療法・予防法の開発のため、臨床研究としてアトピー性皮膚炎、摂食障害の疫学的・分子生物学的研究、外傷性ストレス障害の免疫動態、機能的MRIを用いた失憶症の脳内認知プロセス解明を、基礎的研究として健康度の測定法及び計算式の開発研究、高齢者のストレス反応機序の解明及びその緩和法に関する研究等を行っている。	①心身症・摂食障害・生活習慣病の診断、病態と治療に関する臨床研究、②心身症及びストレス関連身体疾患・摂食障害の発症メカニズム・病態に関する生物学的研究を2本柱に、神経研究所及び他の研究機関を含め、多施設共同研究プロジェクトを進める。また精神保健研究所心身医学研究部を中心とした、全国の心身症治療・研究関連施設と情報・人材の交流を推進する。
児童・思春期精神保健部	児童期及び思春期の精神疾患及び精神保健に関し、主として精神衛生学的、心理学的及び社会学的調査及び研究を行うこと（他部の所掌の属することを除く）	注意欠陥/多動性障害の診断・治療ガイドラインの作成を行い公刊した。さらにそのガイドラインの臨床的適用に関する実証的研究に取り組み、臨床利用に適した改訂版及び公報な利用者のための簡易版の作成に取り組んでいる。児童の行動・情緒障害を把握し心の健康状態を評価する質問紙(CBCL)の日本語版作成と標準化を行った。さらに児童思春期の問題行動に対応する児童思春期精神医療・保健・福祉・教育等の連携システムの実現とその在り方について全国調査等を通じて取り組み、地域への導入に際して推奨する運営システム案を作成した。	注意欠陥/多動性障害の診断・治療ガイドライン改定作業及び簡易版の作成を行う。当部では、特にベアレント・トレナーニングの普及のためのシステム作り、中長期経過、心理療法の適応と限界という3課題を分担して取り組んでいく。行為障害の精神医学的・精神保健的研究を全国の研究者と連携して推進し、行為障害のわが国に適用した概念を作成することにも、その評価・診断法及び治療・援助法等の開発に取り組み、3年後には行為障害の日本版「診断と治療・援助のためのガイドライ」を発表する。さらに児童思春期の強迫性障害について、病態の年代に規定された特異性を明らかにし、それに基づき診断・評価ツール・キットと治療・援助システムの作成に、全国の研究者とならぬかの研究班を構成して取り組みたい。その他多くの研究課題に取り組む準備を行っている。

研究部	所掌事務	現在の取り組み	将来の目標
成人精神保健部	① 壮年期の精神疾患及び精神保健に関し、主として精神衛生学的、心理学的及び社会学的調査及び研究を行うことと(他)部の所掌の属することを除く)	災害や大規模犯罪現場におけるPTSD対策のガイドラインの作成研究を行うとともに和歌山カレラ事件、キルギス人質事件、池田小学校事件、NYテロ事件に対応した。また精神分霊病から統合失調症への評価変更、WPAの反スティアグマプログラムに関与した。さらに自殺遺族の悲嘆と援助に関する研究を行っている。PTSD治療の効果研究にも取り組んでいる。	生命に関わるような災害や強い衝撃を受けた場合、約20%がPTSDを発症する。急性期からの追跡調査、対照群を用いた治療研究を進め、PTSDの予防・早期発見・早期治療の開発を行う。また統合失調症のスティグマ研究を行うほか、うつ病、自殺、適応障害等の予防に關して、社会文化的な観点からの研究を進めていく。
老人精神保健部	① 老年期の精神疾患及び精神保健に関し、主として精神衛生学的、心理学的及び社会学的調査及び研究を行うことと(他)部の所掌の属することを除く)	神経心理学を基盤に老年期脳損傷患者の痴呆や失語、慢性期在宅失語症者の生活の質に関する研究を行う。また精神生理を基盤に痴呆性疾患予防における睡眠からの介入研究、高齢者の睡眠障害の非薬物的改善技術の開発に関する研究を行った。	老年期の精神保健においては、①このころの問題(心理、障害や死の受容、別離と孤独等)、②身体の問題(老年期の生物学的精神医学研究を基盤とする)、③社会の問題(介護、成年後見等)が、新生児期から青年期とは異なってきたため、重畳し合うため、これらの全体的な関連性を視野に入れ、予防を含めた研究を進める。
社会精神保健部	① 精神疾患に関し、社会文化的環境との関係の調査及び研究を行うこと ② 家族、職場、地域その他の人間関係における精神保健に関し、調査及び研究を行うこと	① 精神障害者の退院を促進するプログラムとシステムの開発とモデル的実践、② 精神・知的障害者の要介護ニーズ評価方法の開発、③ 精神障害者の地域生活支援を行う精神保健福祉士等の専門家の養成及び多職種連携、④ 医学分野における説明と同意に関する倫理的問題と倫理審査及び監視機関の機能と役割に関する研究を行った。	① 退院促進に関しては武蔵病院等のモデル実践で成果をあげ、全国の国公立精神科病院等への普及を目標とする。② 介護に関しては介護制度改革本部の政策決定に資する基礎的データを準備する。③ 精神保健福祉士等の専門家を養成・チーム医療に関する研究を推進する。④ 精神保健と生命倫理研究を基盤にガイドライン及び活動マニュアルの研究を進める。
精神生理部	精神疾患及び精神保健に関し、精神及び身体と環境との関係の生理学的及び病理学的調査及び研究を行うこと	健康な生活を営むための最も基本的な生体現象である生体リズムを扱う時間生物学を基盤に、睡眠障害、ヒト生体リズム異常の診断・治療法開発等の研究を行い、一般医療者への普及啓発として「睡眠障害の対応と治療ガイドライン」をまとめた。また24時間社会における睡眠不足・睡眠障害による事故及び健康被害の実態と予防法開発のための研究及び、睡眠覚醒リズム障害の病態解明のための基礎研究を行った。	① 生体リズムと睡眠機構に關して、睡眠覚醒リズム障害の解明と季節性感情障害の高照度光療法の機序解明に取組む。② 睡眠・睡眠不足の身体・内分泌機能への影響に關して、睡眠操作によるうつ病治療法の開発、睡眠障害と生活習慣病の関連を研究する。③ 睡眠と認知機能に關して、睡眠不足・睡眠障害の認知機能、睡眠中の情報処理過程を研究し、事故防止等に寄与する。
知的障害部	知的障害に関し、主として精神衛生学的、心理学的及び社会学的調査及び研究並びに社会復帰に関する調査及び研究を行うこと	発達障害児・者の認知機能の他質的評価のため、① 脳波を応用した臨床神経生理学的検査法の開発と臨床応用、② モデル動物による行動異常の病態、物質基盤の解明、治療研究、③ 健康発達との比較による発達障害児・者の神経心理学的評価及び指導・治療法の開発、④ 学習障害の病態解明とスクリーニング法の開発を行った。また知的障害施策の方向について国立機関の研究協力を進めた。	発達障害は精神遅滞、自閉性障害、学習障害に分類され、発達期の中脳神経系に共通の病態が存在すると考えられる。① 臨床的・基礎的アプローチを併用し、発達障害の認知障害と行動異常の病態解明と診断・治療研究・療育法研究開発とその成果の検証を行う。② 知的障害児・者の社会的適応の向上のための条件整備に關する調査研究を進める。

研究部	所掌事務	現在の取り組み	将来の目標
社会復帰相談部	①精神疾患に関し、社会復帰に関する調査及び研究を行うこと ②精神保健に関し、相談の方法の調査及び研究を行うこと	生物・心理・社会的観点から精神障害を多面的にとらえ、施策として可能な包括的リハビリテーションモデルを提示し、その効果の実証研究を推進するため、統合失調症(精神分裂病)の患者及び家族に対する心理教育の実証的研究、ひきこもりの地域精神障害者に対するドライン作成を行った。また重症精神障害者に対する訪問型包括的地域生活支援システムのモデル構築に取り組んだ。	①重症精神障害者に対する積極的ケースマネジメント(ACI)の導入に関する研究を行い、実証研究に基づく日本にふさわしいモデルづくりを行い、日本の精神保健福祉施策への導入を図る。②地域精神保健の新たなサービスシステムモデルのモデルを提唱し、サービスのガイドライン・マニュアルの作成、サービス維持のためのサポート、サービスの効果に関する介入研究を行う。
司法精神医学研究部	心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者に対する医療、観察及び指導に関し、精神衛生学的、心理学的及び社会学的調査及び研究を行うことをつかさどる。	心身喪失等医療観察法に基づく新制度の発足に際し、新制度の運用状況をモニタリングするための体制づくり、指定入院医療機関における専門治療プログラムの開発、新制度における精神医学的評価手法の開発、指定通院医療機関を中心とする地域支援体制のあり方の問題に取り組んでいる。	新制度の運用状況を適切にモニタリングするためのデータベースを構築し、守秘義務等の種々の倫理的問題をクリアにしつつ、関係機関との情報共有を図り、対象者の治療や予後等の効果判定について客観的なエビデンスを蓄積していく。また、専門治療及び社会復帰に関する教育ならびに研修を実施していく。

精神保健研究所の概況
競争的原理に基づく研究費調達状況

(単位：千円)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度
1 科学技術振興調整費			
(1) 生活・社会基盤研究	8,000	8,000	0
(2) 目標達成型脳科学研究	3,000	3,000	3,000
(3) 我が国の国際的リーダーシップの確保	0	818	0
2 厚生労働科学研究費補助金			
(1) エイズ対策研究	6,000	6,000	6,000
(2) 健康科学総合研究	4,000	6,000	25,100
(3) 厚生科学特別研究	69,000	26,700	1,500
(4) 障害保健福祉総合研究	26,500	80,000	31,300
(5) 脳科学研究	35,000	31,500	0
(6) 医薬安全総合研究	29,000	24,210	25,160
(7) 感覚器障害及び免疫アレルギー等研究	10,000	10,000	7,200
(8) 21世紀型医療開拓推進研究	0	3,000	0
(9) 医療技術評価総合研究	0	18,240	17,640
(10) 子ども家庭総合研究	0	750	10,412
(11) ヒトゲノム再生医療等研究	0	7,500	7,000
(12) こころの健康科学研究事業	0	0	101,838
(13) 労働安全衛生総合研究事業	0	0	7,000
(14) 効果的医療技術の確立推進臨床研究事業	0	0	3,000
(15) 特定疾患対策研究事業	0	0	2,800
	700	22,400	15,900
3 文部科学省科学研究費補助金			
	94,200	94,400	81,523
4 精神・神経疾患研究委託費			
5 民間等からの研究助成金・共同研究費等			
(1) 日本宇宙フォーラム	8,500	2,000	0
(2) 日本学術振興会	1,100	0	0
(3) 安田生命事業団	1,300	500	0
(4) 花王株式会社	0	1,000	3,300
(5) 松下電工株式会社	0	1,000	1,000
バイオ産業情報化コンソーシアム	0	0	3,150
ロフテー株式会社	0	0	1,000
(財)精神・神経科学振興財団	0	0	3,800
宇宙開発事業団	0	0	1,500
(6) その他	2,100	9,928	668
	5,243	5,243	7,000
6 庁費、その他			
合 計	303,643	362,189	367,791

競争的原理に基づく研究費調達状況（H15）

単位：千円

1 文部科学省科学研究費補助金（20,500）

- ・基盤研究（B） 3件
- ・基盤研究（C） 1件
- ・萌芽的研究 1件
- ・若手研究（B） 1件
- ・特別研究員奨励費 4件

2 ミレニアムプロジェクト（7,000）

ヒトゲノム 7,000

3 厚生科学研究費補助金（248,800）

脳科学研究事業 主任研究者 6人

4 精神・神経疾患研究委託費（13,250）

主任研究者 5人

5 その他（12,900）

民間等からの研究助成金・共同研究費等

小 計 302,450

6 受託研究費（16,870）

総 額 319,320

精神保健に関する技術研修

精神保健福祉業務に従事する医師、看護師、臨床心理技術者等を対象とする研

修実績（平成15年度末）

課程別研修修了者数

課 程（研修開始年度）	計	平成12年度	13	14	15
医学課程（昭和36）	841	50	35	25	91
精神保健指導課程（昭和39）	901	20	26	27	23
社会福祉学課程（昭和34）	1,070	27	17	20	15
心理学課程（昭和36）	927	11	17	23	19
精神科デイ・ケア課程（昭和53）	3,414	100	121	92	136
（同上）リーダー研修（平成10）	118	24	20	31	27
薬物依存臨床医師研修（平成11）	224	56	21	31	27
薬物依存臨床看護研修（平成11）	214	60	20	30	36
外傷後ストレス反応課程（平成11）	205	60	53	-	-
計	7,914	408	330	279	374

薬物依存臨床研修（13年度から正規課程）及び外傷後ストレス反応課程研修は、

特別課程として実施。

精神保健研究所 研究生受入状況について

過去3年間受入状況

平成13年度：76名、平成14年度：79名、平成15年度：63名

研究生所属機関

大学・院

聖徳大学、上智大学、総合研究大学院、早稲田大学、清泉女子大学、慶應義塾大学、山梨医科大学、東京大学、都立大学、筑波大学、白百合女子大学、東京家政大学、東京国際大学、九州大学、山梨大学、杏林大学、神戸大学、広島大学、東邦大学、香川医科大学、名古屋大学院、東京大学院

病院・研究施設

東京大学ハラスメント研究所、東京警察病院、池田病院、神経研究所、国立国際医療センター、N T T 東日本関東病院、日本医科大学附属病院、会田記念病院、ロフティ（株）睡眠文化研究所、花王株式会社ヘルスケア研究所、松下電工照明R&Dセンター、井の頭病院、王子クリニック、国府台病院、緑成会成育園、都立大塚病院、済生会中央病院、永生病院、高名静養病院、東芝林間病院、日下病院、赤坂溜池クリニック、湯河原厚生年金病院、水戸赤十字病院、ヘルスサイエンスセンター、飯森クリニック、国立療養所菊池病院、国立療養所福島病院、東大付属病院、九大付属病院、青木病院

その他

市川市立養護学校、市川市立第三中学校、群馬県中央児童相談所、東京都教育相談センター、千葉市教育センター、千葉県、稲城市教育相談所、東京電力、市川市教育センター、駿河台予備学校、松下電工、清瀬市障害者センター、杉並区立子ども発達センター、習志野市スクールカウンセラー

他研究教育施設での研究教育活動（精神保健研究所）

教育活動

各研究部の部長、室長が、それぞれの研究分野の専門的な立場から、全国の拠点大学の非常勤講師として学生の教育（講義、実習）に当たっており、我が国の精神医学、社会生活や医療教育に重要な役割を担っている。

1. 金 吉晴 東京女子医科大学医学部神経精神科分野 非常勤講師
2. 内山 真 千葉大学学生部健康科学分野 非常勤講師
3. 小牧 元 九州大学医学部心身医学分野 非常勤講師
4. 北 道子 千葉大学教育学部小児精神医学分野 非常勤講師
5. 金 吉晴 京都大学医学部精神医学分野 非常勤講師
6. 内山 真 日本大学医学部精神神経医学分野 非常勤講師
7. 内山 真 東京医科歯科大学医学部神経精神医学分野 非常勤講師
8. 荒田 寛 東京国際大学人間社会学部精神保健福祉分野 非常勤講師
9. 田中 康雄 日本社会事業大学社会福祉学部乳幼児精神保健分野 非常勤講師
10. 北 道子 東京医科歯科大学医学部小児科学分野 非常勤講師
11. 安西 信雄 東京大学医学部精神医学分野 非常勤講師
12. 金 吉晴 和洋女子大学家政学部食と心の科学分野 非常勤講師
13. 齊藤万比古 筑波大学第二学群人間学類精神医学分野 非常勤講師
14. 中島 聡美 常磐大学コミュニティー振興学部福祉臨床分野 非常勤講師

研究業績一覧

業績項目	平成14年度		平成15年度	
原著論文 (和 文)	7 6	編	6 5	編
(英 文)	3 3	編	3 1	編
総 説 (和 文)	8 7	編	1 1 0	編
(英 文)	0	編	0	編
著 書 (和 文)	1 0 2	編	9 6	編
(英 文)	1	編	2	編
その他 (和 文)	1 6 2	編	1 3 4	編
(英 文)	5	編	8	編
研究報告書	1 0 9	編	8 0	編
学会発表 (日本語)	2 5 8	回	1 8 0	回
(英 語)	3 3	回	3 0	回
講 演 (日本語)	2 7 0	回	2 8 3	回
(英 語)	6	回	6	回

平成15年度研究報告書一覧

- 1) 竹島 正, 三宅由子, 長沼佐代子: 分担研究報告書「行政・実績報告の整理と有効活用ー精神保健福祉の資料・情報に関する主管課調査」. 平成14年度厚生労働科学研究費補助金(障害保健福祉総合研究事業)「精神保健サービスの評価とモニタリングに関する研究(主任研究者: 岩崎榮)」総括・分担研究報告書, 113-131, 2003.
- 2) 白井泰子: 厚生労働省科学研究補助金(ヒトゲノム・再生医療等研究事業)「遺伝子解析研究・再生医療等の先端医療分野における研究の審査および監視機関の機能と役割に関する研究」平成14年度総括・分担研究報告書(主任研究者 白井泰子)
- 3) 白井泰子: ヒトゲノム・遺伝子解析研究における倫理審査委員会の現状と今後の課題. 厚生労働省科学研究補助金(ヒトゲノム・再生医療等研究事業)「遺伝子解析研究・再生医療等の先端医療分野における研究の審査および監視機関の機能と役割に関する研究」(主任研究者 白井泰子)平成14年度分担研究報告, pp.5-12.
- 4) 白井泰子・山本理奈・廣田真理: 「遺伝子解析研究を中心とした倫理審査委員会の現状に関する調査」(1) - 倫理審査委員会の実態調査 統計解析編. 厚生労働省科学研究補助金(ヒトゲノム・再生医療等研究事業)「遺伝子解析研究・再生医療等の先端医療分野における研究の審査および監視機関の機能と役割に関する研究」平成14年度総括・分担研究報告書(主任研究者 白井泰子), pp.45-75.
- 5) 山本理奈: 「遺伝子解析研究を中心とした倫理審査委員会の現状に関する調査」(2) - 倫理審査委員会の実態調査 自由回答分析編. 厚生労働省科学研究補助金(ヒトゲノム・再生医療等研究事業)「遺伝子解析研究・再生医療等の先端医療分野における研究の審査および監視機関の機能と役割に関する研究」平成14年度総括・分担研究報告書(主任研究者 白井泰子), pp.76-88.
- 6) 林美紀: オランダにおける触法精神障害者に対する精神医学的評価. 平成14年度厚生科学研究: 欧米諸国における触法行為を行った精神障害者に関する精神医学的評価に関する文献的研究(主任研究者: 五十嵐禎人)
- 7) 林美紀: オランダにおける司法精神医療および教育制度. 平成14年度厚生科学研究: 司法精神医療従事者の研究・教育に関する研究(分担研究者: 山内俊雄) 触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価, 治療等に関する基礎的研究(主任研究者: 松下正明)
- 8) 内山真: 24時間社会における睡眠不足・睡眠障害による事故および健康被害の実態と根拠に基づく予防法開発に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金・健康科学総合研究事業平成14年度総括研究報告書, 2003.3.
- 9) 加我牧子: 知的障害児の医学的診断と脆弱X症候群の神経生理学的解析. 厚生科学研究費補助金こころの科学研究事業「遺伝性精神遅滞症脆弱X症候群の分子機構解析とその治療への応用(主任研究者 塩見春彦)」平成14年度総括・分担研究報告書, pp.22-36, 2003.
- 10) 加我牧子: 知的障害児の医学的診断のあり方と療育・教育連携に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業(H12-こころ-002)「知的障害児の医学的診断のあり方と療育・教育連携に関する研究(主任研究者 加我牧子)」平成14年度総括・分担研究報告書, pp.1-6, 2003.
- 11) 加我牧子: 知的障害の重症度ならびに自閉症合併の有無による検討. 厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業(H12-こころ-002)「知的障害児の医学的診断のあり方と療育・教育連携に関する研究(主任研究者 加我牧子)」平成14年度総括・分担研究報告書, pp.7-19, 2003.
- 12) 加我牧子: 知的障害児の医学的診断のあり方と療育・教育連携に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業(H12-こころ-002)「知的障害児の医学的診断のあり方と療育・教育連携に関する研究(主任研究者 加我牧子)」平成12~14年度総合研究報告書, pp.1-5, 2003.
- 13) 加我牧子: 知的障害児の医学的診断検査および連携の現状と今後のあり方. 厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業(H12-こころ-002)「知的障害児の医学的診断のあり方と療育・教育連携に関する研究(主任研究者 加我牧子)」平成12~14年度総合研究報告書, pp.9-22, 2003.
- 14) 加我牧子: 発達期における高次脳機能障害の病態解明に関する研究. 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費 12 公-2「発達期における高次脳機能障害の病態解明に関する研究(主任研究者 加我牧子)」総括研究報告書, pp.1-6, 2003.
- 15) 加我牧子, 白根聖子, 稲垣真澄, 佐田佳美, 羽鳥誉之: 認知発達障害に関する病態解明研究ー意味カテゴリーー一致判断課題施行時の発達障害児における N400 等電位分布図ー. 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費 12 公-2「発達期における高次脳機能障害の病態解明に関する研究(主任研究者 加我牧子)」総括研究報告書, pp.7-14, 2003.
- 16) 加我牧子: 重症心身障害情報ネットワークシステムの開発・管理および超重症児(者)のマニュアルに関する研究. 厚生労働省国立病院・療養所共同臨床研究政策医療分野【重症心身障害】「重症心身障害情報ネットワークシステムの開発・管理および超重症児(者)のケアマニュアルに関する研究(主任研究者 加我牧子)」平成14年度報告書, pp.1-2, 2003.
- 17) 稲垣真澄, 小林奈麻子, 太田玲子, 白根聖子, 加我牧子: 遺伝性難聴マウス bv にみられる回転性行動異常の病態解明と治療に関する研究. 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費 12 公-2「発達期における高次脳機能障害の病態解明に関する研究(主任研究者 加我牧子)」総括研究報告書, pp.27-33, 2003.

- 18) 稲垣真澄：知的障害者の社会参加を妨げる要因の解明とその解決法開発に関する研究。厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉総合研究事業（H14-障害-013）「知的障害者の社会参加を妨げる要因の解明とその解決法開発に関する研究（主任研究者 稲垣真澄）」平成 14 年度総括・分担研究報告書。pp1-4, 2003.
- 19) 稲垣真澄：発達障害児に対する医療・福祉資源活用ならびに連携状況に関する医師への現状調査。厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉総合研究事業（H14-障害-013）「知的障害者の社会参加を妨げる要因の解明とその解決法開発に関する研究（主任研究者 稲垣真澄）」平成 14 年度総括・分担研究報告書。pp5-45, 2003.
- 20) 稲垣真澄：特異的遺伝性難聴の病態解明と直接治療法開発に関する研究。厚生労働科学研究費補助金感覚器障害研究事業（H12-感覚器-006）「特異的遺伝性難聴の病態解明と直接治療法開発に関する研究（主任研究者 稲垣真澄）」平成 14 年度総括・分担研究報告書。pp1-6, 2003.
- 21) 稲垣真澄：遺伝性難聴 bv の進行性聴覚障害に対する神経幹細胞移植の効果。厚生労働科学研究費補助金感覚器障害研究事業（H12-感覚器-006）「特異的遺伝性難聴の病態解明と直接治療法開発に関する研究（主任研究者 稲垣真澄）」平成 14 年度総括・分担研究報告書。pp7-31, 2003.
- 22) 稲垣真澄：遺伝性難聴 bv にみられる回転性行動異常の病態解明と治療に関する研究。厚生労働科学研究費補助金感覚器障害研究事業（H12-感覚器-006）「特異的遺伝性難聴の病態解明と直接治療法開発に関する研究（主任研究者 稲垣真澄）」平成 14 年度総括・分担研究報告書。pp33-43, 2003.
- 23) 稲垣真澄：特異的遺伝性難聴の病態解明と直接治療法開発に関する研究。厚生労働科学研究費補助金感覚器障害研究事業（H12-感覚器-006）「特異的遺伝性難聴の病態解明と直接治療法開発に関する研究（主任研究者 稲垣真澄）」平成 12～14 年度総合研究報告書。pp1-7, 2003.
- 24) 伊藤順一郎、塚田和美、西尾雅明、大嶋歳、仲野栄：重症精神障害者に対する新たな訪問型の包括的地域生活支援サービスシステムの開発に関する研究。平成 14 年度厚生科学研究費補助金こころの健康科学研究費補助金こころの健康科学研究事業（主任研究者：塚田和美）研究報告書。2003.
- 25) 高岡道雄、石下恭子、佐々木昭子、大井 照、中田栄治、竹島 正、角田正史、上野文彌：平成 14 年度地域保健総合推進事業「精神保健福祉法改正に伴う保健所の対応に関する調査研究（事業者：高岡道雄）」、2003.3.科学研究事業（主任研究者：塚田和美）研究報告書。2003.
- 26) 竹島 正、立森久照、三宅由子、小山智典、宮田裕章、長沼洋一：措置通報等に対する都道府県等の対応状況に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）「措置入院制度の適正な運用に関する研究（主任研究者：浦田重治郎）」平成 14 年度総括・分担研究報告書、13-55, 2003.
- 27) 竹島 正、三宅由子、長沼佐代子：行政・実績報告の整理と有効活用ー精神保健福祉の資料・情報に関する主管課調査ー。厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）「精神保健サービスの評価とモニタリングに関する研究（主任研究者：岩崎 榮）」平成 14 年度総括・分担研究報告書、113-131, 2003.
- 28) 竹島 正、立森久照、浅野弘毅、五十嵐良雄、桑原 寛、助川征雄、淵野勝弘、三宅由子、長沼洋一、小山智典、宮田裕章：市町村等における精神保健福祉施策の推進に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）「都道府県・市町村等における精神保健福祉施策の充実に関する研究（主任研究者：中島克己）」平成 14 年度総括・分担研究報告書、25-48, 2003.
- 29) 辻省次、小野寺理、加藤俊一、加藤剛二、鈴木康之、藤田直人、宗形光敏、大橋十也、衛藤義勝、小田慈、柳町徳春、加我牧子、岡本浩一郎：本邦に於ける小児大脳型 ALD 例での造血幹細胞移植後の MRI 変化についての検討。厚生労働科学研究費補助金厚生労働省特定疾患対策研究事業「運動失調に関する調査及び病態機序に関する研究班（主任研究者：辻省次）平成 14 年度研究報告書。pp88-89, 2003.
- 30) 加我牧子、稲垣真澄、白根聖子、堀口寿広、羽鳥誉之、小穴信吾、中村雅子：小児副腎白質ジストロフィー症への神経心理・生理学的アプローチ。厚生労働科学研究費補助金厚生労働省特定疾患対策研究事業「運動失調に関する調査及び病態機序に関する研究班（主任研究者：辻省次）平成 14 年度研究報告書。Pp90-92, 2003.
- 31) 林 美紀：英国司法精神医学サービスにおける患者情報の共有とプライバシー保護。平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価、治療等に関する基礎的研究」（主任研究者 松下正明）分担研究「触法精神障害者の処遇のモニタリングと社会復帰に関する研究」（分担研究竹島 正）
- 32) 林 美紀：ブロードモア病院関係当局「患者を特定可能な情報に関する秘密保持のガイドライン」。平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価、治療等に関する基礎的研究」（主任研究者 松下正明）分担研究「触法精神障害者の処遇のモニタリングと社会復帰に関する研究」（分担研究竹島 正）
- 33) 林 美紀：West London 精神保健 NHS Trust「データ保護方針」。平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価、治療等に関する基礎的研究」（主任研究者 松下正明）分担研究「触法精神障害者の処遇のモニタリングと社会復帰に関する研究」（分担研究竹島 正）
- 34) 林 美紀：一般情報共有に関するプロトコル案。平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価、治療等に関する基礎的研究」（主任研究者 松下正明）分担研究「触法精神障害者の処遇のモニタリングと社会復帰に関する研究」（分担研究竹島 正）
- 35) 鈴木二郎、江畑敬介、長谷川美紀子、池原毅和、中谷陽二、斉藤正彦、白石弘巳、竹島 正、遊佐安一郎、JulioArboleda-florez、AmnonCarmi、XicheLiu、AhmedOkasha、NormanSartorius、VanMarle,

- David Weissstüb, : 精神医学における倫理的問題の国際標準化に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「精神医学における倫理的・社会的問題に関する研究 (主任研究者: 鈴木二郎)」平成 14 年度総括研究報告書, 21-34, 2003.
- 36) 鈴木二郎, 池原毅和, 伊藤弘人, 江畑敬介, 斉藤正彦, 白石弘巳, 竹島 正, 中谷陽二, 長谷川美紀子, 遊佐安一郎, Julio Arboleda-Florez, David Weissstüb: 精神医学における倫理的問題の国際標準化に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「精神医学における倫理的・社会的問題に関する研究 (主任研究者: 鈴木二郎)」平成 12-14 年度総合研究報告書, 35-50, 2003.
- 37) 白石弘巳, 五十嵐禎人, 池原毅和, 木村朋子, 竹島 正, 山本輝之: 各国の精神保健法の比較研究. 厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「精神医学における倫理的・社会的問題に関する研究 (主任研究者: 鈴木二郎)」平成 12-14 年度総合研究報告書, 84-106, 2003.
- 38) 栗田広, 河野稔明, 長田洋和, 小山智典, 立森久照, 大塚麻揚, 石田裕美: 高機能広汎性発達障害の早期徴候. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究 事業「高機能広汎性発達障害の社会的不適応とその対応に関する研究 (主任研究者: 石井哲夫)」研究報告書, pp99-108, 2003.
- 39) 金吉晴, 加茂登志子, 柳田多美: 医療現場におけるDV被害者への適切な対応に関する研究—DV被害女性の健康被害に対する文献的調査. DV被害者における精神保健の実態と回復のための援助の研究班. 平成 14 年度厚生労働科学研究, 498-507, 2003.
- 40) 立森久照, 五十嵐禎人, 浦田重治郎, 助川征雄, 小山智典, 林 美紀: 英国における司法精神医学サービスにおける情報収集システムについて. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価、治療等に関する基礎的研究」(主任研究者: 松下正明). 分担研究「触法精神障害者の処遇のモニタリングと社会復帰に関する研究」(分担研究者: 竹島 正).
- 41) 竹島 正, 五十嵐禎人, 浦田重治郎, 川端 博, 助川征雄, 立森久照, 橋本康男, 林 美紀, 三宅由子: 触法精神障害者の処遇のモニタリングと社会復帰に関する研究. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金: 触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価、治療等に関する基礎的研究 (主任研究者: 松下正明). 分担研究: 触法精神障害者の処遇のモニタリングと社会復帰に関する研究」分担研究者: 竹島 正).
- 42) 林 美紀: オランダにおける司法精神医療および教育制度. 平成 14 年度厚生労働研究: 触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価、治療等に関する基礎的研究 (主任研究者: 松下正明). 司法精神医療従事者の研究・教育に関する研究 (分担研究者: 山内俊雄) 報告書. pp.55-64.
- 43) 鈴木二郎, 江畑敬介, 長谷川美紀子, 池原毅和, 中谷陽二, 斉藤正彦, 白石弘巳, 竹島 正, 遊佐安一郎, Julio Arboleda-florez, Amnon Carmi, Xiche Liu, Ahmed Okasha, Norman Sartorius, Van Marle, David Weissstüb, : 精神医学における倫理的問題の国際標準化に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「精神医学における倫理的・社会的問題に関する研究 (主任研究者: 鈴木二郎)」平成 14 年度総括研究報告書, 21-34, 2003.
- 44) 鈴木二郎, 池原毅和, 伊藤弘人, 江畑敬介, 斉藤正彦, 白石弘巳, 竹島 正, 中谷陽二, 長谷川美紀子, 遊佐安一郎, Julio Arboleda-Florez, David Weissstüb: 精神医学における倫理的問題の国際標準化に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「精神医学における倫理的・社会的問題に関する研究 (主任研究者: 鈴木二郎)」平成 12-14 年度総合研究報告書, 35-50, 2003.
- 45) 白石弘巳, 五十嵐禎人, 池原毅和, 木村朋子, 竹島 正, 山本輝之: 各国の精神保健法の比較研究. 厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「精神医学における倫理的・社会的問題に関する研究 (主任研究者: 鈴木二郎)」平成 12-14 年度総合研究報告書, 84-106, 2003.
- 46) 栗田広, 河野稔明, 長田洋和, 小山智典, 立森久照, 大塚麻揚, 石田裕美: 高機能広汎性発達障害の早期徴候. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究 事業「高機能広汎性発達障害の社会的不適応とその対応に関する研究 (主任研究者: 石井哲夫)」研究報告書, pp99-108, 2003.
- 47) 金吉晴, 加茂登志子, 柳田多美: 医療現場におけるDV被害者への適切な対応に関する研究—DV被害女性の健康被害に対する文献的調査. DV被害者における精神保健の実態と回復のための援助の研究班. 平成 14 年度厚生労働科学研究, 498-507, 2003.
- 48) 林 美紀: オランダにおける司法精神医療および教育制度. 平成 14 年度厚生労働研究: 触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価、治療等に関する基礎的研究 (主任研究者: 松下正明). 司法精神医療従事者の研究・教育に関する研究 (分担研究者: 山内俊雄) 報告書. pp.55-64.
- 49) 竹島 正, 立森久照, 寺田一郎, 羽藤邦利, 天野聖子, 藤井要子, 増富信子, 三宅由子, 宮田裕章, 小山智典, 長沼洋一: 社会復帰施設機能の測定に関する研究. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (障害保健福祉総合研究事業) 「社会復帰施設機能の測定に関する研究 (分担研究者: 竹島 正)」分担研究報告書.
- 50) 竹島 正, 田中康雄, 東保みづ枝, 中村健二, 三宅由子, 山下俊幸: 地域のメンタルヘルスの検討. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (厚生労働科学特別研究事業) 「心の健康問題と対策基盤の実態に関する研究 (主任研究者: 川上憲人)」総括・分担研究報告書, 131-139, 2003.
- 51) 竹島 正, 三宅由子, 佐名手三恵: 自殺予防対策の実態と応用に関する研究—都道府県・政令指定都市における自殺予防対策の実態について. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「自殺と防止対策の実態に関する研究 (主任研究者: 今田寛陸)」総括・分担研究報告書, 137-157, 2003.

- 52) 竹島 正, 五十嵐禎人, 浦田重治郎, 川端 博, 助川征雄, 立森久照, 橋本康男, 林美紀, 三宅 由子: 触法精神障害者の処遇のモニタリングと社会復帰に関する研究. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価, 治療等に関する基礎的研究 (主任研究者: 松下正明)」総括・分担研究報告書, 111-128, 2003.
- 53) 橋本康男, 竹島 正: 自殺予防対策の実態と応用に関する研究—ネット自殺防止対策検討のための概念整理. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「自殺と防止対策の実態に関する研究 (主任研究者: 今田寛陸)」総括・分担研究報告書, 221-227, 2003.
- 54) 三宅 由子: 追跡研究における諸問題—心神喪失者等医療観察法(案)の適用対象となった者の追跡研究を想定して—. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価, 治療等に関する基礎的研究 (主任研究者: 松下正明)」総括・分担研究報告書, 133-136, 2003.
- 55) 三宅由子, 立森久照, 竹島 正, 川上憲人: 地域疫学調査による「ひきこもり」の実態調査. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (厚生労働科学特別研究事業) 「心の健康問題と対策基盤の実態に関する研究 (主任研究者: 川上憲人)」総括・分担研究報告書, 141-151, 2003.
- 56) 中根允文, 三宅由子, 竹島 正: 自殺にかかわる精神保健問題の啓発に関する研究—日・豪比較研究のための調査票日本語版の作成. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「自殺と防止対策の実態に関する研究 (主任研究者: 今田寛陸)」総括・分担研究報告書, 237-380, 2003.
- 57) 立森久照, 織田弘子: 地域モデルの自殺防止対策の職域への応用に関する情報収集. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「自殺と防止対策の実態に関する研究 (主任研究者: 今田寛陸)」総括・分担研究報告書, 441-446, 2003.
- 58) 立森久照, 五十嵐禎人, 浦田重治郎, 助川征雄, 小山智典, 林 美紀: 英国における司法精神医学サービスにおける情報収集システムについて. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価, 治療等に関する基礎的研究 (主任研究者: 松下正明)」総括・分担研究報告書, 111-128, 2003.
- 59) 佐名手三恵, 竹島 正, 三宅由子: 自殺予防対策の実態と応用に関する研究—統計資料からみた自殺予防における「いのちの電話」の活動の実態について—「いのちの電話」受信統計の自殺志向受信件数と人口動態統計の自殺者数との性別年齢比較から—. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「自殺と防止対策の実態に関する研究 (主任研究者: 今田寛陸)」総括・分担研究報告書, 159-166, 2003.
- 60) 佐名手三恵, 竹島 正, 三宅由子: 自殺予防対策の実態と応用に関する研究—地域の自殺予防対策におけるネットワーク構築の観点からみた「いのちの電話」の活動の実態と連携のあり方について. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「自殺と防止対策の実態に関する研究 (主任研究者: 今田寛陸)」総括・分担研究報告書, 167-210, 2003.
- 61) 佐名手三恵, 竹島 正: 自殺予防対策の実態と応用に関する研究—Web サイトにおける自殺に関する情報提供の実態に関する研究. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「自殺と防止対策の実態に関する研究 (主任研究者: 今田寛陸)」総括・分担研究報告書, 211-219, 2003.
- 62) 今田寛陸, 松岡 豊, 石原明子, 江原勝久, 小山智典, 長沼洋一, 佐名手三恵, 竹島正: 自殺と予防対策の実態に関する日豪比較研究. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 「自殺と防止対策の実態に関する研究 (主任研究者: 今田寛陸)」総括・分担研究報告書, 229-236, 2003.
- 63) 竹島正, 五十嵐禎人, 浦田重治郎, 川端博, 助川征雄, 立森久照, 橋本康男, 林 美紀, 三宅由子: 触法精神障害者の処遇のモニタリングと社会復帰に関する研究. 平成 14 年度厚生労働科学研究「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価, 治療等に関する基礎的研究」(主任研究者: 松下正明) 分担研究「触法精神障害者の処遇のモニタリングと社会復帰に関する研究」(分担研究者: 竹島正) 報告書, pp111-128.
- 64) 立森久照, 五十嵐禎人, 浦田重治郎, 助川征雄, 小山智典, 林 美紀: 英国における司法精神医学サービスにおける情報収集システムについて. 平成 14 年度厚生労働科学研究「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価, 治療等に関する基礎的研究」(主任研究者: 松下正明) 報告書, pp149-155.
- 65) 林 美紀: 英国司法精神医学サービスにおける患者情報の共有とプライバシー保護. 平成 14 年度厚生労働科学研究「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価, 治療等に関する基礎的研究」(主任研究者: 松下正明) 報告書, pp156-157.
- 66) 林 美紀: ブロードモア病院関係当局「患者を特定可能な情報に関する秘密保持のガイドライン」(翻訳). 平成 14 年度厚生労働科学研究「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価, 治療等に関する基礎的研究」(主任研究者: 松下正明) 報告書, pp158-164.
- 67) 林 美紀: 一般情報共有に関するプロトコル案(翻訳). 平成 14 年度厚生労働科学研究「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価, 治療等に関する基礎的研究」(主任研究者: 松下正明) 分担研究「触法精神障害者の処遇のモニタリングと社会復帰に関する研究」(分担研究者: 竹島 正) 報告書, pp165-172.
- 68) 林 美紀: West London 精神保健 NHS Trust「データ保護方針」(翻訳). 平成 14 年度厚生労働科学研究「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価, 治療等に関する基礎的研究」(主任研究者: 松下正明), pp173-189.
- 69) 清水新二, 川野健治, 宮崎朋子, 平山正実, 加藤勇三, 秋山淳子: 自殺に関する心理社会的要因の把

- 握方法に関する研究：遺族個別面接調査と遺族支援グループ訪問調査。平成14年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）「自殺と防止対策の実態に関する研究」総括・分担研究報告書，pp.123-136，2003.8.
- 70) 竹島 正，立森久照，三宅由子，小山智典，宮田裕章：分担研究報告書 こころの健康調査のシステム管理に関する研究。平成14年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）「こころの健康に関する疫学調査の実施方法に関する研究」総括・分担研究報告書，pp 101-106，2003.
- 71) 鈴木二郎，池原毅和，伊藤弘人，江畑敬介，斉藤正彦，白石弘巳，竹島 正，中谷陽二，長谷川美紀子，遊佐安一郎，Arboleda-Florez. Julio, Weiss (ub. David)：分担研究報告書 精神医学における倫理的問題の国際標準化に関する研究。平成12-14年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）「精神医学における倫理的・社会的問題に関する研究」総合研究報告書，pp 35-53，2003.
- 72) 白石弘巳，五十嵐禎人，池原毅和，木村明子，竹島 正，山本輝之：分担研究報告書 各国の精神保健法の比較研究。平成12-14年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）「精神医学における倫理的・社会的問題に関する研究」総合研究報告書，pp 84-106，pp 149-194，2003.
- 73) Liu X, 内山真：日本、米国、中国における睡眠・生体リズム障害の予防、発達医学の面からの実証的な比較に関する研究。平成13年度厚生科学研究費補助金「脳科学研究推進事業」研究報告集，財団法人長寿科学振興財団，2003.
- 74) 加我牧子：自閉症の認知機能～神経生理学的アプローチを中心に～。平成14年度厚生労働科学研究「こころの健康科学研究成果発表会（研究者向け）報告書」，pp21-33，2003.
- 75) 加我牧子，稲垣真澄，白根聖子，堀本れい子，羽鳥誉之，佐田佳美，佐々木匡子，堀口寿広，昆かおり：知的障害児・者の発達・老化に関する研究－聴覚性 Mismatch negativity の発達の变化と発達障害児・者への応用－。平成13年度厚生労働省障害保健福祉総合研究「知的障害者施設における援助システムに関する研究（主任研究者 楠本欣史）」平成13年度研究報告書，pp63-67，2002.
- 76) 加我牧子，稲垣真澄，白根聖子，堀本れい子，羽鳥誉之，昆かおり，小穴信吾，阿部利明：知的障害者の早期老化と施設における対応について－成人ダウン症候群の視聴覚認知機能－。平成14年度厚生労働省障害保健福祉総合研究「知的障害者施設における援助システムに関する研究（主任研究者 楠本欣史）」総合研究報告書 平成14年度研究報告書，pp129-131，2003.
- 77) 西尾雅明：ACT見聞録「ACT-J」。メンタルケア協議会第七回シンポジウム「新障害者プランとACT」報告書，pp19-25，2003.
- 78) 西尾雅明：Assertive Community Treatmentにおける"assertive"の意味するもの。メンタルケア協議会第七回シンポジウム「新障害者プランとACT」報告書，pp72-73，2003.
- 79) 治療拒否問題検討グループ（代表：玉井真理子，池田優剛，桂川純子，加藤太喜子，上條陽子，蔵田伸雄，鈴木泰子，千葉華月，永水裕子，野崎亜紀子，林美紀，細田満和子，村松哲夫，横野恵）：新生児医療におけるいわゆる治療拒否に対応するための資料集。成育医療研究委託事業「重症障害新生児医療のガイドライン及びハイリスク新生児の診断システムに関する総合的研究」（主任研究者：田村正徳）2003年度報告書・別冊，2003.10.
- 80) 伊藤順一郎：地域精神保健活動における介入のあり方に関する研究。平成12～14年度厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業総括報告書，2003.